

VOL.72

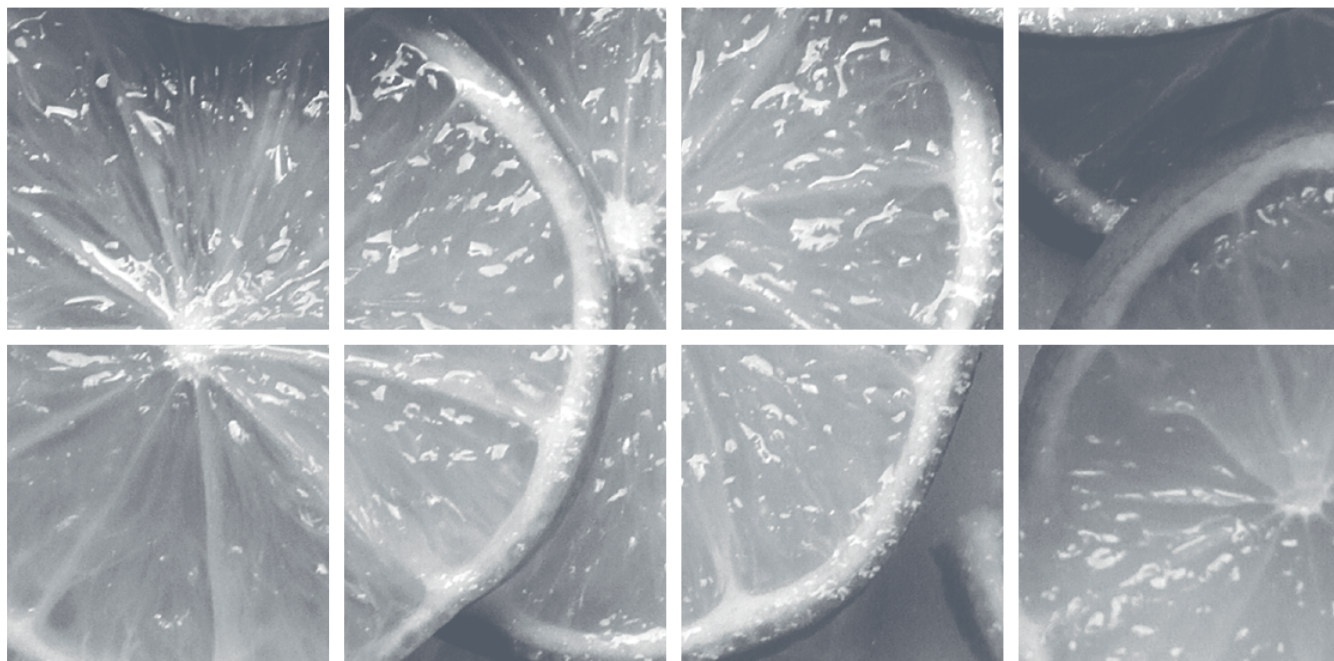
2011

SUMMER

川崎いのちの電話

Kawasaki inochi no denwa

ひとりで悩まずに ☎ **044-733-4343**



東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます

CONTENTS

特集

「家族のいま、これから～」

芹沢 俊介氏 文芸社会評論家

川崎いのちの電話支援者紹介

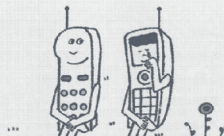
「応援しています」

寺嶋 啓介さん 寺嶋ヨガ教室 主宰

インフォメーション

こころの健康セミナー

自殺防止事業公開講座



あなたがつらいとき、
近くにいます。

ひとりで悩まないで、こころの苦しみを、お話しください。

自殺予防 いのちの電話

0120-738-556

毎月10日(月) 24時間・無料です (8:00～翌日8:00)

社会福祉法人 川崎いのちの電話

特 集

「家族のいま、これから～」

文芸社会評論家 芹沢 俊介 氏

時代と家族のあり方は切り離すことができません。今の時代はどんな時代なのか、これからの家族がどんなふうになっていくのか、時代を生き、家族を生きる中で考えて頂けたらと思います。

個人化の時代

今の時代を個人化の時代と捉えています。個人化の時代は、1970年前後を境目にして以後40年。何を指標にして、個人化の時代と言えるのか。ひとりの女性が生涯生む子供の数、合計特殊出生率が2.1以上であれば人口は拡大し、2.1未満であれば縮小していく。今は1.4でしょうか。回復の見込みは今の時点ではありません。どうして女性は産むことをやめてしまったのか、その一つの理由が個人化の時代ということです。「人は人、自分は自分」という倫理を生き始めたということ、自分を最優先する、これが個人化の時代の特徴です。つまり自分が一番かわいい、自分以外の存在を生み育てるという厄介な仕事に携わることが、どれほど重い負担と感じるか、この意識が1970年代以降急激に強まりました。

1950年前後から、核家族という言葉が使われてきました。夫婦と子供だけでまとまる志向性です。この志向性の現れが例えば公団住宅の2DK、夫婦と子供以外の家族を入れることが難しくなったのです。個人化の時代は、その核

家族の、核の部分を分解し解体していきます。家族であってもひとりひとりという感覚です。何をもって象徴させるか、それは携帯電話です。携帯電話の特徴は、共有しないということ。家族であろうとも情報、コミュニケーションを共有しません。一度手にしてしまうと手放すことが難しい、単に利便さから手放せないのではなく、我々がひとりひとりを生きなくてはならないということからなのです。

そこから大きく変わってきた問題が、プライバシーです。1950年前後～70年くらいまでの20年間は核家族のピーク、全盛期です。この時代の中でプライバシーというのは、社会に対して家族を守ろうとする時に出てくる、家族の内側の事情といえます。個人化の時代に入ったことで、プライバシーは社会と家族の対立から生まれるだけでなく、家族間においても生まれてきています。家族の領域の中に、自己領域というものが生まれて、たとえば夫婦間であろうとも親子間であろうとも踏み込んではない領域、そこに葛藤が生じ、対立、トラブルが起きているのが現状です。

核家族が主役の座を降りた

この個人化の時代に生まれる家族意識の形は、私なりに考えて二つあります。一つは個別同居型、もう一つは個別別居型の家族意識です。これらは、核家族が主役の座を降りた後の家族のあり方と思って頂けたら良いと思います。

個別同居型という言葉を作ったのにはきつ

今回は、相談ボランティアの理解を深めるための2011年度基礎講義(公開講座)の第2回、芹沢俊介氏の講義からその内容の一部を紹介します。講義の内容は、「家族のいま、これから～」との演題で、個人化の時代とされる現代の傾向を家族に即して考えてみようとする、興味深いものです。家族についての悩みを訴える電話相談も多いなか、私たちがどう聴き、寄り添っていくのが良いのか、参考になるのではないのでしょうか。

かけがあります。1960年代後半から70年代にかけて住宅の設計思想をリードした建築家の黒沢隆さんが「個室群住居」という視点を打ち出しました。それは「核家族の時代には主寝室・子供部屋・DKで構成されていた住居の主寝室を壊し、家族ひとりひとりが個別の空間を持つ」というものです。仕事やひとりになりたい時は自分の部屋へそれぞれが入る。そこにはベッドや仕事机もあります。部屋を個室と呼び、夫婦に2つの空間が生まれ、子供ができれば子供の個室が生まれます。ここには核家族の設計思想である「主寝室」はなくなっています。

もう一つの「個別別居型」の家族意識というのは、結婚していても別居している、あるいは同居していても顔を合わすのは3週間に一度位がいいかなという感覚です。私より少し若い50代前半のご夫婦では決して珍しくありません。個人化の時代の意識が、否応なく生み出した家族意識の形なのではないかと思います。

一緒になのひとり

個人化の時代の家族は、一緒になのひとり、一緒になのにバラバラ、という感覚ですね。これは、我々が人類史の中で初めて獲得したものです。最大の関心事は自分、誰はばかることなく振舞える、それはとても快適。ところが、その快適さと背中合わせに引き受けなければならない現実が生まれてきています。それは孤立ということです。孤立のもたらす感情は、寂しさ・人の温もりが欲しい・人なつかしいというものです。つまり、快適さは孤立感と引換えということ、これが大きなポイントです。孤立感を排除してひとりの快適さを味わうのは不可能なのです。自分を最優先していけばそこから他者が消えていき、個別化の度合いだけ家族関係の濃密さ



を失っていくのです。そして、家族意識としてはここが限界、家族の個人化の中で、行き着くところまで行ったという感じがします。

では、これから先の家族をどうするか。その手がかりを、血縁ではない他者が複数集まりながら、自分たちの生活の場を構想していくグループホームに求めました。ヨーロッパでは数百年じっくり時間をかけてきたことを、日本はわずか数十年でしてしまったのです。この速度に身体・精神が対応できるとは思えず、身体感覚としては感じなくても、きしみやゆがみが色々なところに出ていると思っています。

関心を失うと

お年寄りの所在不明問題は、今日のテーマで言えば、個人化時代の産物です。所在不明とは、その人が所在不明なのではなくて、お年寄りや、ある存在に関心を持つ誰かがいなくなったということです。つまりお年寄りの問題ではなく、こちらの問題なのです。

その大きな要因のひとつは、自分が一番大事

であるという考え方と符合しています。そのことに僕は気づかされました。「これはオレの問題」だと。なぜかという、僕の両親は二人とも老人ホームにいますが、僕は、週に一度必ず行って2時間、母の横に居ようと決めています。母は、言葉を発せられないのですが、頭の中は大変クリアです。その母の傍に、2時間は居ようと決めている。これは「意志」なんです。つまり、母と子の関係が僕をそこに近付けているのではありません。放っておけば自分の事情を優先しますから、僕は老人ホームに行かなくなってしまう。自分の意志として週に1回必ず行く、2時間は必ず居ると決めないとそこから遠ざかってしまう。それは、親孝行とか親不孝とかいうことではない。自分を最優先にする個人化の時代では、老人ホームから離れていくのは避けられない。この先に所在不明の問題は出てきます。行かなかったら自分の親を所在不明にしてしまうのです。

これは、我々に突きつけられている、個人化の時代の最もシビアな問題です。家族の絆とかは、今ではまったく無効になっている。自分に対して関心の度合いが強まれば強まるほど、他者に対しては無関心になる。無関心になったそこには命はない。誰かが関心を寄せるから、そこに命がある。こういう、かなりギリギリのところ、に我々はきている。薄紙1枚のところ、で、何とか踏みとどまっている自分を感じます。無関心になるのは簡単なことです。関心を持続けるには、意志しかないのです。

優しさを感じる社会へ

いのちの電話というのは、そこにかけてくる人が、自分に関心を持ってほしいということで、関心を持ってもらえば、人はひとりで居ても生きられる。誰も自分のことに関心を持ってくれなくなった時、人は生きられない。決して人ごとではなくて、僕自身が本当に「これはオレの問題だ」ということを感じている。そういう意味で、個人化の時代の凄まじさ、同時にその時代の中の優しさとは何かを考えざるを得ないのです。つまり関心を持ってくれる「誰か」に出会うことができるなら、その人にとってその「誰か」を感じることは優しさを感じることでないか、そう思います。

これをどのように作っていくか、皆さんは、

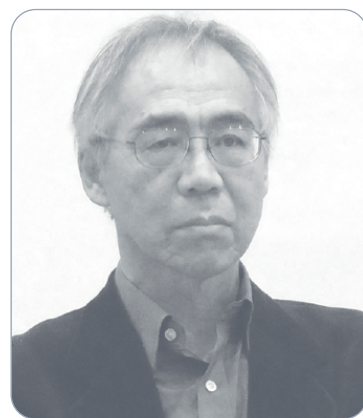


いのちの電話に関わりたいと考えているわけで、また実際に関わっている方もおられます。そのことの意味は、いま申し上げた個人化の時代の中、その時にしかなれないけれど、「誰か」になろう、電話をしてくる人の「誰か」になろう。電話をしたいのだけど電話をしてこられない人たち、あるいは、電話をすることさえも考えられない、そういう人たちの「誰か」になろうということ、それが皆さんのテーマになっているのではないか、そんなふうに考えます。

(文責：川崎いのちの電話広報部)

PROFILE

芹沢 俊介氏



文芸社会評論家、1942年東京生まれ。40年にわたって家族、子ども、女性、犯罪、新宗教、死などをテーマに批評を書き続ける。1998年から横浜にて児童養護施設、知的障害者施設の施設長らと養育論の再構築を目指した「養育を考える会」を始める。この会は隔月で開かれ、14年目を迎えた今も、誰でも参加できる、養育をめぐる活発な話し合いの場として続いている。

「応援しています」

川崎いのちの電話 支援者紹介



寺嶋 啓介さん

寺嶋ヨガ教室主宰

寺嶋ヨガ教室は、川崎市麻生区を中心に週11教室(生徒数約100名)あり、寺嶋啓介さんが、これまで47年余にわたり主宰されています。川崎いのちの電話開設時には、この教室の生徒さんから8名の方が相談員第1期生として応募・認定され、電話相談活動に取り組まれたということです。今回、広報部で寺嶋さんの教室にお伺いした際には、その第1期生で、今は活動から退かれています品川くに子さん、嘉瀬志津子さんのお二人にも同席頂くことができました。

寺嶋さんが、「いのち」の大切さをヨガ教室の生徒さんに説くことやいのちの電話活動に打ち込まれてきたのは、高校生時代の親友の事件に根ざしています。自死を打ち明けた親友に1年待つよう説得するも、その1年後、薬剤を使って永眠。彼を救えなかった、その後悔が今に至るも胸中にあると、

寺嶋さんは言われます。

東京いのちの電話の開設に際し相談員を募集するとの新聞記事を見つけ、応募者約350名のうちから認定された相談員第1期生(300名)のひとりとして、寺嶋さんは20年以上活動を続けられました。その間に一時、川崎いのちの電話立ち上げ時の理事・相談員として転籍され、電話相談活動の実務を支え、相談員委員会などの組織の運営指導に大変ご尽力頂きました。財政面でも、ライオンズクラブを一つ一つ訪ね、東京センターでの活動を例に引いて、いのちの電話の重要性を説き、理解を深めることで活動への支援を取り付けられたそうです。川崎センターの活動が軌道に乗った頃、東京センターに戻られ、また、活動を退かれた後も、主宰するヨガ教室での献金を、両センターへの支援として続けておられます。

「いのちの電話は、今や大きな川の流れのように全国に広がって、この活動に参加できたことに感謝するとともに、そのことを誇りに思う」と寺嶋さんは締めくくられました。

今年80歳になられた寺嶋さん、ご自身の健康のもとでもあるヨガ、書道・囲碁・社交ダンスなどの多彩な趣味を楽しまれて、ますますお元気で活躍頂きますように。また、品川さん、嘉瀬さんご協力有り難うございました。

(文責:川崎いのちの電話広報部)

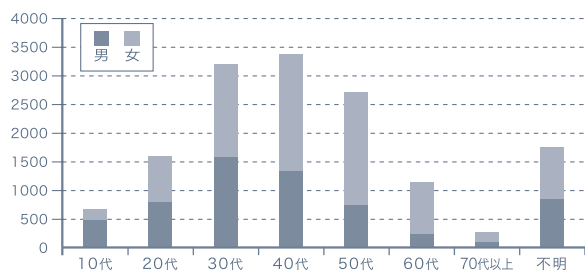
受信状況 2011年1月～4月

総受信数 **6,524 件** (1日平均 54.3件)

相談数 **4,690 件** (1日平均 39.1件)

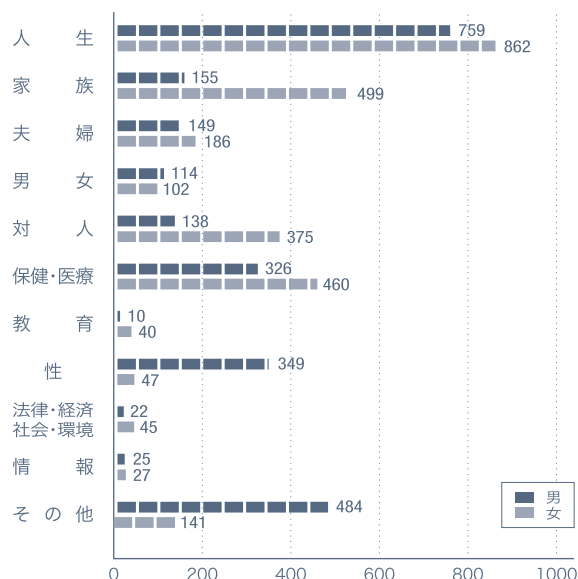
自殺志向 **439 件**

年代別相談件数 (2010年)



2010年の年代別相談件数を男女でみると、総件数で女性が男性を上回り、40代で男性の1.4倍、50代より上の年代では男性の2.5倍以上と差が開いている。一方、20代以下では男性件数が多く、特に10代では女性の4倍を超えている。

内容別・性別受信状況 (2011年1月～4月)



インフォメーション

川崎いのちの電話主催

入場
無料

1 「こころの健康セミナー」

講師／倉嶋 厚氏（フリー気象キャスター・エッセイスト）

「やまない雨はない」
一妻の死、うつ病、それから……

【日時】 2011年9月17日(土) 開演 14:00

【会場】 高津市民館大会議室（マルイファミリー11階）
JR南武線「武蔵溝ノ口」
東急田園都市線「溝の口」下車すぐ

2 「自殺防止事業公開講座」予告

講師／佐藤 初女氏（森のイスキア主宰）

【日時】 2011年12月2日(金) 開演 18:30

【会場】 川崎市産業振興会館
JR川崎駅下車 西口より8分

問合せ

川崎いのちの電話事務局（月～金 10:00～17:00）
TEL:044-434-0253



資金ボランティアとしてのご支援を！

川崎いのちの電話の活動は皆様の資金援助によって運営されています。
多くの方々にご協力をいただきますようお願いいたします。

【1】賛助会員年会費 下記からお選びください。

法人	10万円	5万円	3万円	1万円	
個人	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円

【2】一般寄付（金額、回数は自由です。）

【振込先】 ■郵便振替 00240-2-36798
社会福祉法人川崎いのちの電話

【問合せ】 川崎いのちの電話事務局 TEL: 044-434-0253

*賛助会員・一般寄付金ともに、個人の所得税・住民税・相続税(要確定申告)
および法人の法人税において、優遇措置の対象となります。

寄付感謝報告

2011年2月～
2011年5月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告
いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

〔個人〕	清 宮 慶 一 (2月) エドワード・ジョストフスキ	長 掛 栄 一 中 島 泰 己	山 鹿 文 子 仁上喜久夫	時 光 明 鈴 木 清	安 藤 義 雄 片山世紀雄	山田美和子 早 崎 悦 子	片山世紀雄 豊 田 君 子
浜 井 慶 子	野 島 名 菜 子	宮 原 信 子	千 田 智 子	藤 野 宏 子	佐 藤 美 津 子	城 野 眞 澄	近 藤 俊 朗
豊 後 秀 長	布 施 喜 作	石 原 淳 子	岩 田 洋 子	稲 川 菊 代	戸 張 道 也	露 木 知 美	府 川 宏
近 藤 俊 朗	岡 田 幸 雄	相 馬 修 一	小 林 勝	齋 藤 正	林 茂	田 玉 由 希 子	三 枝 基 行
(3月)	岡 田 修 二	栗 井 清	常 松 恭 子	柴 田 頼 子	井 田 光 政	豊 後 秀 長	棚 部 哲 男
片山世紀雄	関 口 恵 美	西 村 治 人	大久保規矩夫	石 川 俊 恵	近 藤 俊 朗	佐 藤 節 男	和 田 義 盛
府 川 宏	後 藤 田 正 一	鈴 木 敏 江	匿名2名	水 野 明	豊 田 君 子	久 保 美 矢 子	小 島 良 子
山田美和子	中村泰夫・文子	漆 原 敦 子	(4月)	高 橋 勉	府 川 宏	尾 根 恒	匿名4名
豊 田 君 子	伊 藤 奎 助	倉 田 隆 常	岡 田 祐 子	大 石 眞 理	豊 後 秀 長	小 池 とも子	
近 藤 俊 朗	藤 嶋 と み 子	宮 下 貞 子	岡 田 良 子	田 中 幸 治	匿名1名	佐 藤 美 和 子	
三 宅 晶 子	鈴 木 典 子	田 中 房 治	藤 野 竹 子	深 瀬 正 子	(5月)	岡 田 良 子	

〔法人及び各種団体等〕 (株)飛鳥典禮 捜真女学校高等学部・中学部 カリタス学園同窓会 川崎中原ロータリークラブ (株)東洋ロザイ
川崎白百合ライオンズクラブ ライオンズクラブ国際協会330B地区 川崎西ロータリークラブ センター製作部 新ゆり製作部 共同購入

〔10万円以上の個人・法人及び各種団体等〕 森 清(50万) 川崎東ライオンズクラブ(10万円) 匿名1名(10万円)

合計 2,286,160 円

編集後記

東日本大震災の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。生家が福島第1原発被害の計画の避難区域にあり、いまだに被害終息の予測がつかないこともあって、気が滅入る日が続いています。このまま戻る日がなさそうにさえ思ってしまう故郷、そこで一緒に過ごした家族を思い起こす日々、特集の芹沢先生「家族」評論を読み合わせて懐かしさが募るばかりです。(S.M)

東日本大震災で被災された皆様、蒸し暑い日が続く毎日ですが、体調はいかがですか。ご飯を食べておられますか、眠れていますか、お側に誰がいらっしゃいますか、お話し相手はおられますか？大変な思いをされましたね、どんなに怖かったか想像もできません。少しずつでもお気持ちが楽になっていくように祈っています。私たちはいつでも皆様に寄り添う気持ちでおります。(N.T)